土建しんぶん

墨田、江東、江戸川合同編集

東京土建一般労働組合
江東ブロック会議
江東区北砂1－11－4
TEL〔3640〕2411
発行者　大勝友二
定価　30円
新聞代は組合費に含まれています

◆事務所休館のお知らせ◆

江東支部

9月3日（木）午後から書記局会議のため、事務所を閉館とさせていただきます。予め、ご了承ください。

ある日の休日　「休むこと」の大切さ

未だ収束の見えないコロナ禍。それは私たちの仕事や暮らし、組合活動にも大きな制約を課しています。新型コロナウイルスに振り回されている日々、そんな日々だからこそ『休むこと』も大切になってきます。先の見えない状況の中でも、私たちは日々の『リズム』を崩さず、「今できること」を皆で考え、実行していきましょう！
―今号では、４人の組合員さんより、『休日』についての寄稿をいただきました―

Love the nature

小名木分会・通信員　油屋　正孝

コロナ禍でどこへも行けず、モヤモヤしている。

東京で生まれ、東京を知らない、東京生まれの田舎っぺ。

東京も自然が多いんですよ。23区唯一の自然渓谷を歩いて来ました。

世田谷区の等々力渓谷です。谷沢川と多摩川が合流する手前、唯一の自然公園です。台地と谷の標高差は約10m、夏でもヒンヤリしています。渓谷前はケヤキ、コナラ、ムクの木等が茂り、川のせせらぎ、小鳥のさえずりを耳にし、いたる所から水が湧き出ています。水辺近くは常緑シダ類などの湿性植物が目に付きます。うっそうとした樹林と渓谷の美しさは、23区とは思えない自然の豊かさに圧倒され、自然に触れることができます。

誰にも気を使わず、自分のペースで歩く『ソロハイク』。

来てよかった。

東京の自然を、里山を、ソロハイクで歩きたい。

四季折々の里山へ、希望はふくれ上がっています。

私の休みの過ごし方

四砂分会　佐原　晶子

今年はコロナの流行で外出自粛とされ、学校も休校、仕事もテレワークだのと自由をしばられてしまいました。本来なら国内外で、バカンスを楽しみにしていたはずでした。

我が家は夏休みのごった返しが嫌で、まして夫婦はともに東京生まれの東京育ち。お盆に帰省がないのです。

主人も私も夏休みは交代で取るしくみなので、息子たちが学校に上がる前は八月を過ぎてから、学校に上がってからは夏休みギリギリで旅行に行きました。それも神奈川の箱根。乗り物好きな息子たちを黙らすには、これが一番。ロマンスカーに登山鉄道、ケーブルカー、ropewayに海賊船とフリーパスを駆使し、あとは大涌谷や強羅公園にユネッサンと楽しみました。

中学にあがる頃は息子たちも部活で忙しく、家族で行くことはなくなりましたが、息子たちからも手が離れ、主人と二人、記念日ごとに箱根に訪れています。普段どこへも行かず家に籠り、仕事で疲れた体を休め、記念日には箱根に行く。年に三、四回ですがね。宿だけ決めて、あとはノープランです。土日・祝日が絡むと人だかりなので、平日に夫婦でリュックを背負い出掛けます。

いずれは息子たちも結婚し、孫でもできれば孫も一緒ですが、まだまだ先の話。しばらくは、夫婦で旅行することを楽しみたいですね。

早くコロナが収束し、箱根だけではなく、もっともっといろんな所に行きたいです。

自粛生活とマスク

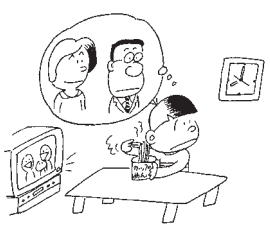
亀戸分会・通信員　吉田　美穂子

「休業補償が出れば、休んでもいいよ」と言われ、仕事の休みはありませんでした。

自粛生活中は、皆さんと同じように日々を送っていましたが、世の中はマスク騒動、トイレットペーパー不足、インスタント食品買いだめによる品不足。でも、私は本来「買いだめ傾向」にあるので、マスク50枚入り12箱、トイレットペーパー6袋、冷凍食品ご飯物、麺類、アイスと冷凍庫はいつもいっぱいです。

強いて言えば、小池知事の手作りマスクを見て創作意欲が湧いたのですが、食料品関係のお店しか空いておらず、マスク用の布、ゴムが買えず、インターネットで探しあぐねていました。

30年ぶりにミシンを出して、苦労して集めたマスク用品で、いろいろな種類のマスクを作りました。女性の会の『子育て世代』の方々に届けましたが、とても喜んでもらえたと思います。私には、自粛とはいえ有意義な時間でした。



登山と懸けて組合と説く、その心は……

小名木分会　小栗　宏司

週末になると天気予報と「にらめっこ」しながら、どの山に登るか悩んでます。

最近はコロナの影響で、前日の夜発で登山口駐車場で仮眠を取り、早朝五時には登山開始。すぐに汗が吹き出ますが、登り続けると時々開けた場所に出るので、そこで一服。汗を拭いて水分補給。ナッツなどカリウムを摂って、また登るを繰り返しなら山頂を目指します。辛くて辞めたい気持ちと葛藤しながら頑張ると山頂に登りきれます。

ようやく登り切ったご褒美。素晴らしい眺めと達成感は、やり遂げた人にしか味わえません。

さて、下山しましょう。

事故は下りに多いので、気持ちを切らさず慎重に歩を進めましょう。そして無事に下山。この時ばかりはコーラで乾杯、これが最高に美味しいんだなぁ！

コロナなので「東京から来た登山者」と断わりを入れてから、温泉と土地の名産を食します。帰りの車中では、丈夫に産んでくれた母と健康に感謝しながら帰途に着きます。

明日も仕事ガンバロウ!!

……なんか土建の『拡大行動』と似ているなぁ?!

焦点

Q&A

エアコン

感染予防、換気に要注意

窓開けて空気の通り道を

Q　本格的な夏を迎え、エアコンがフル稼働する時期だね。

A　今年の夏は熱中症の予防はもちろん、新型コロナウイルスの感染予防にも気を付ける必要がある。厚生労働省は冷房中も定期的に窓を開けるなど、こまめに換気することを呼びかけている。

Q　エアコンって、換気もできるんだよね。

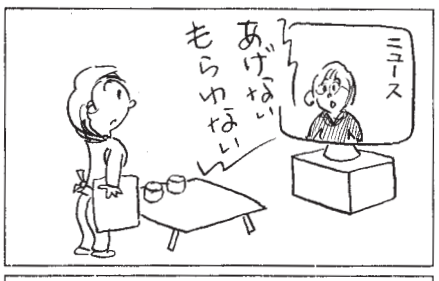
A　いや、家庭や職場の一般的なエアコンは室内の空気を循環させながら冷やしたり暖めたりするもので換気機能はない。空調大手ダイキンの調査によると、「エアコンでは換気できない」ことを知っていた人は4割程度だったそうだ。

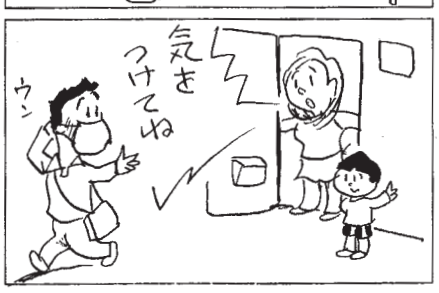
Q　じゃあ、どうすればいいの？

A　同社がホームページで効果的な換気の方法を紹介している。家庭では（1）換気扇や換気口を利用する（2）窓を1時間に5～10分程度開ける（3）対角線上にある2カ所の窓を開けて空気の通り道をつくる――などだ。

Q　職場では？

A　窓やドアを開けるのは家庭と同じだけれど、窓のない会議室などではドアをオープンにし、扇風機やサーキュレーターを置いて空気が流れるようにしたい。大型ビルは十分な換気装置の設置が建築基準法で決められているので安心。でも心配なら管理者に聞いてみてもいいね。





分会リレートーク

深川北分会

『深北分会の親分?!』いつも頼りになる栗原さんです！

さて今回の役者は〝クリちゃん〟こと栗原吉雄さんです。旧深川第一分会から拡大運動、支部の運動と、私が忘れていても、「イクぞー！ヤルぞー！」と血気盛んでした。

分会合併前からも、黒田分会長ともども悩んでいましたが、「何クソ、ヤル気になれば何でも解決できる」と！

深北分会の役員とも顔見知りが多くいて、ためらう事もなくスムーズな合併でした。猿江一丁目の町会長になった今でも、住宅デーの参加者確保、分会でのバーベキュー大会の人集めも、先頭を切っての行動。分会にとっては喉から手の出るほどの人材です。コロナ禍で組合運動もなかなかできない中でも、拡大については意気盛んです。

まだまだ元気でお付き合い、よろしく頼みま～す！

中谷登志夫　記（深川北分会）

―私も、ひと言―

情勢を見る（その②）

中谷登志夫
（深川北分会）

……まだ問題があった。

広島への原爆投下直後に降った放射性物質を含む「黒い雨」で健康被害を受けたとして、県内の84人が広島県と広島市に『被爆者健康手帳』の交付を求めた訴訟の判決で、広島地裁は84人全員を被爆者と認め、県と市に手帳の交付を命じた。

原告らは投下当時、国が援護対象とする区域外だとして申請を却下されていたが、今回の裁判で住民に対する援護を拡大して、「黒い雨」体験者を認める司法判断になった。

「黒い雨」は放射性物質を含む雨で汚染された水を飲んだり、食物を取ったりしたことによる「内部被ばく」で、造血機能障害などの病気を発症したり、放射能の影響を受け、ガンなども発症する。

戦争で被爆した住民に対して国は責任問題を隠してはいけないし、戦後75年経っても、まだ住民は不安だらけの生活をしいたげられている事が実情だ。

組合も今年の世界大会はコロナ禍で参加できないが、多くの人が悲惨な「戦争」を語り続けていく事が重要だと思う。

※当記事の入稿後、広島県と広島市は国からの要請を受け入れ、8月12日に控訴するに至りました。

―平和寄稿―

『君、死にたもうことなかれ』から読む戦争とは

佐原晶子
（四砂分会）

日本は「八月」を、特別な意味を持つ月としています。広島、長崎の原爆投下と終戦記念日です。

ここから日本は高度成長を遂げました。でもこれより前にも、日清戦争や日露戦争がありました。その中で、作家でもあり歌人でもある与謝野晶子さんの身内（実弟）が出征するときに歌った歌がありました。

与謝野晶子さんと言えば情熱的であり恋愛の作品と言われましたが、弟、それも末弟の跡取り息子が出征するときに、まるで親心か、戦争が憎いと捉える歌です。

『弟よ、君泣く（中略）……親は刃を握らせて、人を殺せと教えしや、24歳まで育てしや』

親は、あなたに刃を握らせるために24歳まで育てた覚えはありません。

これは明治時代から大正～昭和にかけて受け継がれました。

もし今、戦争が起こり、息子や孫が出征したら親はここまで詩に思いを馳せられますか？

私は戦争を知りません。でも、私も一親として思うのです……

与謝野晶子さんは「こんな思いをさせてはいけません！　戦争とはこんな辛い思いをするのだから！　自分も身内も！」……と。